

# 実績報告書

届出者	住所	東京都中央区日本橋本町3-5-1	氏名	第一三共株式会社 代表取締役社長 眞鍋 淳
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		医療用医薬品の研究開発、販売等		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 25 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	813 t-CO <sub>2</sub>	618 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	891 t-CO <sub>2</sub>	684 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)	
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	11.6 %	11.9 %	24 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	11.9 %	12.5 %	23.3 %	
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>大阪支店として下記の取り組みを実施致しました。</p> <p>① オフィスビルの取り組み 空調および照明時間の短縮と空調温度の適正管理</p> <p>② 営業車両の取り組み 支店で保有している営業車両の85%以上がハイブリッドカーに変更</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

当社グループでは代表取締役副社長執行役員が環境経営最高責任者としてグループ全体を統括し、工場・研究所・オフィス・車両を対象とした環境マネジメントを推進しております。温暖化対策についても当社グループの環境経営年度方針に基づき、各組織にて行動計画を立案し実施結果を報告しております。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1113) 空調温度設定 変更	事務所の空調温度を夏季 26℃⇒27℃、冬季 23℃⇒22℃に変更することにより電力を削減する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1126) 不在箇所の消灯	不在箇所の電灯を消すことにより電力を削減する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1111) クールビズ推進	大阪支店全事業所においてクールビズを推進して電力を削減する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	大阪支店社屋	コード (1216) 空調設備の省エネ化	社屋の改修工事において空調を省エネタイプに更新したことにより電力を削減する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	大阪支店社屋	コード (1218) 照明設備のLED化	社屋の改修工事において照明をLEDタイプに更新することにより電力を削減する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコドライブ の実践	燃費の管理、安全運転講習を含め、エコドライブの意識を高める。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2122) 自動車利用の 見直し	モビリティ・マネジメントの実施及びマイカー通勤の禁止。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2121) 低公害車等の 計画的な購入	リース車両更新時 (5年) には低排出ガス車 (ガソリン・17年基準75%低減車) の車両を導入している。 (ハイブリッドカーを導入)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	愛知県一宮市萩原町萩原字松山 531番地27	氏名	ダイセイエブリー二十四株式会社 代表取締役 田中 孝昌
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		一般貨物運送事業。主に冷蔵食品の輸送を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 25 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	4,965 t-CO <sub>2</sub>	4,038 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,064 t-CO <sub>2</sub>	4,057 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	1 %	9.3 %	14.4 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	8.9 %	13.4 %	19.9 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

全車両、デジタコを搭載し結果をランキングにしていることにより、エコドライブへの意識を向上させています。	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

スローガンMUST7項目の中で「環境」活動に力を入れて取り組んでいます。電気代削減のため電気代削減会議を月1回（人事部）、エコドライブ講習を月2回（教育評価制度チーム主導の基）開催しています。ハイブリッドトラックの導入と講習会を日野自動車様を招いて毎月1回（総務部）開催しています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1122) 空気調和設備 の運用改善	冷暖房の温度設定を最適に行う（冷房 28℃・暖房20℃）。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1126) 不要時の事務機器の電源オフ	不要時の事務機器の電源オフや照明の消 灯を行う。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1218) 照明設備の導 入	順次、省エネ効果の高い照明設備に更新 する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2121) 低燃費車の導 入	全ての事業所のトラックの更新時に、低 燃費車を導入する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコドライブ の推進	トラック全車がエコドライブを推進す る。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2126) 輸送の効率化	効率的なルート選定により輸送の効率化 を行う。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2199) グリーン経営 認証の取得	グリーン経営認証の取得を通じてトラッ ク全車がエコ活動を推進する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策
